

2024年3月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	27,613,483	17,525,367	157.6%	37,781,753	73.1%
国内旅行	5,441,870	7,491,035	72.6%	6,890,293	79.0%
訪日旅行	1,387,296	856,353	162.0%	2,664,513	52.1%
合計	34,442,650	25,872,756	133.1%	47,336,561	72.8%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーtravel、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較をするとともに、2019年同月比を記載しております。

■ 海外旅行

コロナ禍以降、盛況な訪日需要の影響もあり、出発間際の航空座席が取りづらくなっていることから、少しでも早く夏休みの旅行をご検討いただけるよう「夏先ドリ家族旅行」キャンペーンを実施。早期割引に加えて、12歳未満のお子様のパスポート新規取得代金の全額支援などの施策を展開しました。3月出発の取扱高においては、20代女性をはじめとする卒業旅行需要の取り込みが奏功し、2019年同月比73.5%と2ヶ月連続で7割台の回復となりました。主な渡航先としては、韓国が2019年同月比104.8%、続いて台湾が98.8%と、近場の東アジアの需要が高かった他、オーストラリア・ケアンズがLCCを利用したツアーが好調で128.2%、欧州方面が98.0%と取扱高を牽引しました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比157.6%、2019年同月比73.1%の276億1,348万円となりました。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	2019年同月比
アジア	76.7%
オセアニア・南太平洋	104.8%
ハワイ・ミクロネシア	40.1%
欧州・中近東・アフリカ	97.0%
北米・中南米	66.8%

商品別	2019年同月比
手配旅行	78.1%
企画旅行	67.5%

チャネル別	2019年同月比
店舗	58.0%
オンライン	99.9%

■ 国内旅行

沖縄・北海道に加え、ハウステンボス・五島列島をメインにした「長崎キャンペーン」を実施。グルメクーポンや、早めの予約で客室無料アップグレードなどの特典により、九州地域の販売促進を図りました。また、「北陸応援割」においては、限定的ではあったものの、即日完売となるなど注目の高さがみられました。3月出発の取扱高においては、団体旅行が前年同月比を上回るなど好調に推移した一方で、個人旅行は、前年の「全国旅行支援」効果からの反動減により、前年同月比を下回りました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比72.6%、2019年同月比79.0%の54億4,187万円となりました。

■ 訪日旅行

東京・豊洲の商業施設「豊洲 千客万来」に、訪日外国人旅行者向けの観光案内所として「豊洲ツーリストインフォメーションセンター」を新設し、着地後のサービス拡充を図りました。受客に関しては、春の桜シーズンに突入したこともあり、北米からの団体旅行が急増したことにより取扱高を牽引しました。関西地域では、寿司握り体験やちゃんこ鍋ディナー付きの大相撲三月場所観戦ツアーが、北米・豪州からの受客を中心に反響があり、設定数が完売するなど好調に推移しました。九州地域では、桜の名所を絡めた周遊ツアーや、ベトナム航空と鹿児島県とともにインバウンド観光推進で実施した、「ハノイー鹿児島間2Wayチャーター便」の受け入れを機動的に対応するなど、地域活性化に努めました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比162.0%、2019年同月比52.1%の13億8,729万円となりました。

2024年3月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比133.1%、2019年同月比72.8%の344億4,265万円となりました。

2024年3月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
インバウンド	10,843,832	6,677,602	162.4%	13,537,606	80.1%
アウトバウンド	18,544,721	18,123,278	102.3%	19,075,685	97.2%
合計	29,388,553	24,800,881	118.5%	32,613,292	90.1%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 35 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。また、2019 年度は旧会計基準、2024 年度のツアー商品は「進行日」、手配旅行は「手配完了日」に計上基準を変更した参考値となります。また、コロナ以前と比較するため、2019 年同月比を記載しております。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。 海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■ 海外インバウンド

「MIKI グループ (※1)」では、日本市場において欧州行きの企画旅行が回復したことにより、前年同月比 174.5%、2019 年同月比 90.7%と、海外インバウンド事業全体の取扱高を牽引しました。カナダ法人の「JONVIEW CANADA (※2)」では、欧州からの春のレジャー需要の高まりを捉え、前年同月比 106.7%、2019 年同月比 134.3%で推移しました。また、ベストシーズンとなるベトナム法人においては、個人・団体旅行のいずれとも好調に推移し、前年同月比 339.6%、2019 年同月比 81.2%、イギリス法人では、日本からの卒業旅行による企画旅行の増加や、プレミアリーグのサッカー観戦チケット付きツアーの需要を獲得したことにより、前年同月比 122.6%、2019 年同月比 98.2%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 162.4%、2019 年同月比 80.1%の 108 億 4,383 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

取扱高を牽引するカナダ法人の「RED LABEL VACATIONS (※3)」は、先月に引き続き、単価が控えめな近場に需要が偏る傾向があるものの、予約者数を伸ばすことができ、前年同月比 105.9%、2019 年同月比 117.6%となりました。メキシコ法人では、「セマナ サンタ(イースター)」の連休に伴うパッケージツアーを中心に好調に推移し、前年同月比 130.0%、2019 年度同月比 134.6%となりました。また、スペイン法人では、桜のシーズンに合わせた日本へのレジャー旅行需要を確実に捉え、前年同月比 135.8%、2019 年同月比 128.6%となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 102.3%、2019 年同月比 97.2%の 185 億 4,472 万円となりました。

2024 年 3 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 118.5%、2019 年同月比 90.1%の 293 億 8,855 万円となりました。

(※1) MIKI グループ (連結対象：2017 年 5 月～)

欧州並びに日本を含むアジア各国の 30 都市以上で事業展開するグローバルツアーオペレーター。サプライヤーとの強い信頼関係に基づく確かな仕入と、きめ細やかな手配力・現地を知り尽くした企画力で、世界中の旅行会社の安心・安全・高品質な旅作りを実現。

(※2) JONVIEW CANADA (連結対象：2017 年 12 月～)

カナダを代表するツアーオペレーターとして、欧州からの受客を中心にインバウンド事業を展開。世界中の旅行業向けの商品やサービスを多数提供し、30 年以上にわたり事業展開する中で、カナダ国内の 2,000 以上を超えるサプライヤーと提携。2023 年 8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

(※3) RED LABEL VACATIONS (連結対象：2019 年 3 月～)

カナダを拠点にオンライン旅行販売とホールセラー事業を通じてアウトバウンド事業を展開。オンライン販売のブランド (redtag.ca と itravel2000.com) を通じて、世界中のパッケージツアー、フライト、ホテル、周遊など、多様な旅行商品を提供。ホールセラーとしては、カナダの旅行代理店にあらゆる旅行商材を提供。2023 年 8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
広報室：050-1746-4177